



札幌市立南の沢小学校
学校だより特別号
令和 7 年 9 月 1 1 日

<http://www.minaminosawa-e.sapporo-c.ed.jp/>

令和 7 年度「全国学力・学習状況調査」の結果と分析結果のお知らせ

今年度 4 月の「全国・学力学習状況調査」について、本校の調査結果をお知らせいたします。この調査は、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としております。6 年生を対象に実施されたものですが、今回の結果を基に全国のものと比較・分析をし、本校の教育活動全体の充実に生かしていきます。

【①学力テスト（国語・算数・理科）について】

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
国語	「話すこと・聞くこと」 「言葉の特徴、情報、文化等に関する知識及び技能」 ⇒ 全国平均を 下回っている が「漢字を文の中で正しく使う」が高い結果となっている。 「書くこと」「読むこと」 ⇒ 全国平均とほぼ同等で、やや下回っている が、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」や「内容の全体を捉える」が全国平均を上回っている。	① 話し手の意図を捉えて聞き、自分の意見と比較して考えをまとめること ② 聞き手の反応を踏まえて分かりやすく表現を工夫すること ③ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること ④ 目的や相手に応じて文章全体の構成を考えること ⑤ 文章や資料を関連付けて読み取ったり、展開に即して内容を的確に押さえながら要旨を捉えたりすること	◇ 実際の話し合いの場面を具体的に想定し、目的や意図に応じて話す内容や質問を分類・関係付けて、話し合いの進め方を考える学習活動の充実 ◇ 書く目的や意図を明確にし、条件に合わせて詳しく書いたり簡単に書いたりするとともに、図表を用いるなど、必要な場合を判断して書き表し方を工夫する学習活動の充実 ◇ 説明的な文章を読む目的を明確にし、文章や図表など複数の資料から必要な情報を取捨選択・整理・再構成し、それぞれの資料を関連付けて考える学習活動の充実
算数	「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」 ⇒ 全国平均を 下回っている が「二次元の表から条件になった項目を選ぶ」が全国平均を上回っている。 「変化と関係」 ⇒ 全国平均とほぼ同等であるが、やや下回る。	① 異分母の分数の加法の計算や、はかりの目盛りの正確な読み取り ② 問題解決のために必要な数量を見いだし、その理由や求め方を言葉や数、式を用いて記述する力 ③ 記述式問題の平均正答率（が低くなっている）	◇ 数直線や図を活用し、計算の意味や仕組みを深く理解できる学習活動の充実 ◇ 伴って変わる二つの数量関係を表・式・言葉で表現する活動や問題解決の過程を説明する記述式問題へ取り組む学習活動の充実 ◇ 思考の過程を可視化し、自分の考えを言葉や数、式を用いて表現する学習活動の充実
理科	「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」 ⇒ 全国平均を 下回っている が「顕微鏡の操作」や「水の蒸発についての概念的な理解」が全国平均を上回っている。	① 氷が溶けることや海面水位の上昇など、地球の現象に関する概念的な理解と表現 ② 身の回りの電気を通す物と磁石に引き付けられる物との差異点や共通点の理解、水の温まり方や音に関する実験計画と説明 ③ 観察や実験結果を基に結論を導く理由を表現する力、仮説を立てて計画する力	◇ 時間的・空間的な見方を働かせ、科学的根拠に基づいて地層の広がりや大地の変化について考察し、表現する学習活動の充実 ◇ 物質の性質に関する理解を深めるために、学習した知識を既習の内容や他の学習・生活と関係付け、整理する学習活動の充実 ◇ 観察、実験の結果を比較して差異点や共通点を基に具体的な問題を見い出し、ノートに書くなど、思考し表現する学習活動の充実

【教科に関する児童質問調査について】

質問事項	本校	全国
国語の勉強は得意ですか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 67.2%	61.4%
算数の勉強は得意ですか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 67.2%	60.3%
理科の勉強は得意ですか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 87.5%	78.4%
国語の勉強は好きですか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 65.6%	58.3%
算数の勉強は好きですか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 71.9%	57.9%
理科の勉強は好きですか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 82.9%	80.1%
国語の授業の内容はよく分かりますか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 84.4%	82.8%
算数の授業の内容はよく分かりますか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 82.8%	78.3%
理科の授業の内容はよく分かりますか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 93.8%	88.9%
国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか	よくしている・どちらかといえばよくしている 85.9%	79.1%
算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 70.3%	65.5%
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返っていますか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 86.0%	76.0%

【児童質問調査について】

質問事項	本校	全国
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 96.9%	92.2%
自分には、よいところがあると思いますか	当てはまる・どちらかといえば当てはまる 89.1%	86.9%

【本校の傾向】

本校の六年生は先生との関係性がよく、自己肯定感も高い傾向にあります。このベースはとても素晴らしく、喜ばしい結果です。一方、教科に関する児童質問調査では、ほぼ全ての項目で上記のように全国平均を上回る、あるいはほぼ同程度の**高い自己評価**となっています。特に「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」「自分の考えを発表する」「情報を整理する」といった主体的な学びや表現に関わる自己評価が全国平均よりも高いことは特筆すべき点です。

しかし、学力テストの結果と照らし合わせてみると成果につながっているとは言えません。このギャップは、児童が学習活動に積極的に関わり、自分の考えを形成しようと努力していると感じている一方で、その活動が知識・技能の定着や、思考力・判断力・表現力といった「学ぶ力」として学力テストの成果に結びついていない現状を示唆しています。

【考えられる要因と今後の取組の方向性】

1. 「表現」に関わる内容の課題の深化

札幌市全体の小中学校でも「表現」に関わる内容に課題が指摘されています。本校の児童は「自分の考えを発表する」ことに肯定的な自己評価をもっていますが、学力テスト（※特に自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力や実験結果を用いて結論に至った理由を記述する力）が低い結果であり、表現の「質」がまだ十分に高まっていない可能性を示しています。

また、全国的な傾向に目を向けていくと【全国的な相関関係の図】（※1）のような関係が見えてきます。「考えを形成する実践」と「高い成績」には明確な相関関係があるのです。

つまり、本校の児童の習慣と学力スキルとの間の溝を埋めることが本校の挑戦になっていきます。高い意識をもっている子どもたちが主体的に探究を進める中で、自分の考えをもてるような機会をつくっていくと子どもたちの学力も高まると考えられます。

【全国的な相関関係の図】（※１）

「自分の考えをまとめる」への回答	国語・算数・理科の平均正答率
「当てはまる」	高い傾向
「当てはまらない」	低い傾向

2. 活動の「質」を高める指導

児童が「自分で考え、自分から取り組む」活動をしていると認識していても、それが「実生活の様々な場面に活用する力」や「様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力」へとつながっているかを問い直す必要があります。札幌市教育委員会からも「学びのコントローラーをもっているのは子ども自身」というコンセプトのもと、子ども自身が課題に対して主体的に探究し、自分の考えをもちながら学び進められるような単元や題材の構成を学校に求めています。学級活動や総合的な学習の時間等と関連付けたり、委員会活動や異学年交流などに結び付けたりした教育活動を推進していきます。

3. リフレクション(振り返り)のさらなる充実

本校の児童は「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と全国よりやや高い自己評価をしています。学力テストの結果から、この振り返りの質をさらに深める必要性があります。単に振り返るだけでなく、自分の学びを客観的な複数の視点で評価し、次の学習に具体的にどう活用するかまで考える機会を増やしていきます。

4. ICT 活用の深化と情報整理・分析能力の育成

本校の ICT 活用に関する自己評価も高く、特に「情報を整理する」点では全国を上回っています。これは札幌市全体の課題意識と異なる本校の強みです。しかし、学力テストの結果から、収集した情報を「どのように整理・分析するとよいか」という具体的な指導をさらに強化していく必要性があります。そのために、それが学力向上に直結するような活用へとつなげていく学習活動を取り入れていきます。

【一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校を目指して】

本校の児童は、学習に対する意欲や主体性をもっているという強みがある一方で、その意欲や活動が、学力として測定される「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の定着・活用にまでつながっていないと考えることができます。

これは、ちょうど「水を汲むことに熱心な子どもたち（質問調査の肯定的な回答）がいるが、その水が十分な深さの貯水池（学力テストの成果）に蓄えられていない」ような状況と捉えることができるかもしれません。水を汲む意欲があるなら、その水をより効果的に貯水池に導き、活用できるようにするための工夫、つまり学習活動の質を高め、知識を定着させ、思考を深める指導を目指すよう学校全体で取り組んでいきます。

学校説明会でもお伝えさせていただいたように、子どもたちの声を聴き、おもしろそうだと思うような学習活動を充実させ、学んだことを実生活に役立てていけるような力の高まりを目指していきます。